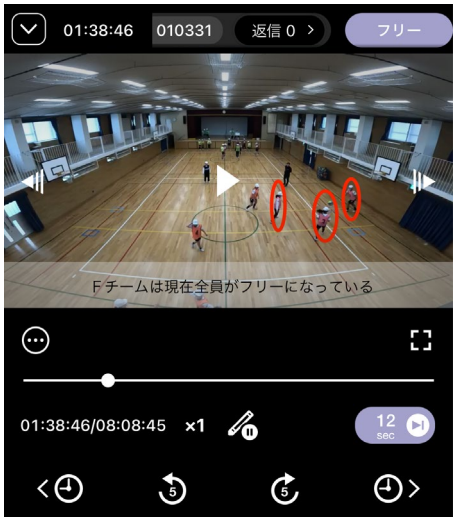
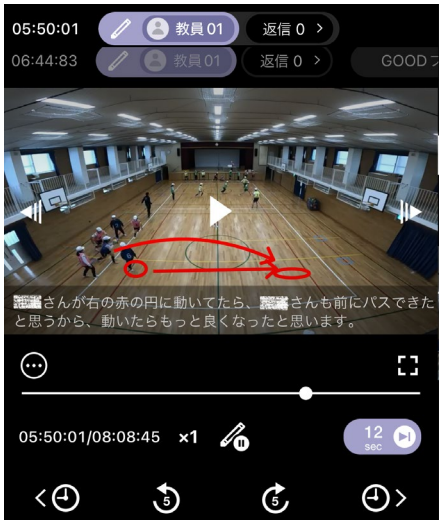
令和５年度大学・附属学校園連携事業推進経費　成果報告書

所属名	表現活動教育系
研究課題名	ICT活用による「分析」を取り入れた対話的な体育科教育の実践研究
研究課題概要	現行学習指導要領によれば、体育科教育における「体育の見方・考え方」とは、運動やスポーツについて、その意義や特性に着目して、楽しさや喜びを見出すとともに体力の向上に果たす役割を捉え、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全といった視点を踏まえながら、自己の適性等に応じて「する・みる・支える・知る」等の多様な関わり方について考えることと明記されている（小学校学習指導要領【体育編】（平成29年告示）解説）。よって体育の学習場面において、「運動する」だけではなく、身体活動との多様な関わりが促進されるような教材や授業が求められている。特に「分析」を充実させた授業実践は対話的で主体的な学びの実現に効果的であり、またICTを活用した「分析」は、授業中だけでなく、授業時間外でも取り組むことができる点において、授業時間内の運動時間を逼迫することなく、遠隔での協働学習、家庭との連携・協力体制の強化にも繋がる可能性が高い。 これまでの研究動向として、附属天王寺小学校では、子どもの動きが「めざす動き」に変容することをめざして「分析」を意識した授業実践に取り組み、次のような課題を挙げた。①「分析」を通じて、自信をもって話し合いに参加することができた児童がいる一方で、発言する量に偏りがみられ、発言が少ない児童がいる可能性が高い。②発言の質・量もチームや個人によって異なり、論理的根拠に基づいて対話することができていたかの把握が不十分。③撮影機材・分析技術の不足による分析の限界。 このことを踏まえて、本研究では、体育科における「思考力・判断力・表現力」としての運動の言語化とコミュニケーション能力の向上に資する教材開発を目的とし、映像分析ツール（SPLYZA Teams、株式会社SPLYZA提供、https://products.splyza.com/teams/）を利用した「分析」活動の学習効果の検証を行った。その過程で、体育実技の授業内外でのICT活用による、学習者の「分析」状況の観察評価を実施した。実施方法としては、教員及び学習者各人に１ライセンスずつSPLYZA Teamsを導入し単元を通して活用した。授業中撮影された運動場面の動画をSPLYZA Teamsのアプリケーション内にアップロードし、学習者はそれらの動画再生・タグ付け・コメント書き込み等、アプリケーションの活用により、自分たちのプレーについて課題発見・解決に向けた分析・立案等の学習活動を行った。 対象単元は、ボール運動（球技）であり、SPLYZA Teamsで活用する動画は、授業内のゲーム場面を高所から撮影したものを使用した。授業を担当する教員は、クラス全体の情報共有Teamや、各単元の学習グループごとのTeamを作成し、学習者を各Teamに追加することで、自由に授業展開をアレンジすることができた。本研究の対象となる単元前後で、学習者には運動有能感及び授業評価のアンケートを実施。グループ学習場面、一斉指導場面での学習者の発言・対話をAIボイスレコーダーで記録した。授業終了後、SPLYZA Teams内の「分析」場面の学習者の発言（コメントやタグ付け）内容及び、授業内でのグループ学習、一斉指導時の発言・対話の内容を対象にテキスト分析を行った。前後のアンケートの回答及び、発話内容の変化から「分析」活動の学習効果の検討を行なった。 その結果、授業内外で運用されたコミュニケーション機能の活用は授業の進行に伴って活性化し、学習のねらいに沿ったキーワード（タグ）の出現の増加傾向が確認された。また、教員からの発問や助言もより的確に学習者に伝わり、そのことが学習者の知識理解の促進やグループ内の円滑な情報共有、学習へのモチベーション向上に効果をもたらすと考えられ、「分析」を取り入れた協働学習の効果的実践として成果を得た。   図.SPLYZA Teams の書き込み画面（一部改変）

研究課題の構成員 **（リーダーに※）**	橋元　真央（表現活動教育系）※ 麓　健志郎（附属天王寺小学校） 武井　浩平（附属天王寺中学校） 白石　大悟（附属高等学校天王寺校舎）